

2 簡易更新の種類別方法 ～特性を知ってうまく活用～

(1) 表層攪拌法

表層攪拌法は、プラウによる反転耕起をすることなく表層をロータリーハロやディスクハロにより攪拌・砕土して、は種床を造成する更新法です。

●利点

- ・堆肥や石灰質資材を混和でき、土壌の物理性・化学性の改善効果大きい
- ・整地効果があり小規模のでこぼこが解消できる

●注意点

- ・土壌が膨軟になるため、夏季高温時には干ばつに遭う危険性が増す
- ・傾斜地、多量降雨時に種子や表土が流亡しやすい

☆チェックポイント

- ・は種後の鎮圧が必要（特に高温時は十分に行う）
- ・地下茎イネ科雑草（シバムギ・リードカナリーグラス）が30%以上を占める場合は前植生の全面枯殺が必要

作業工程



※地下茎イネ科雑草が30%以上を占める場合は前植生枯殺処理
石灰質資材（ライムケーキまたはブロードキャスト散布）
堆肥散布（マニュアルプレッタ）

砕土、攪拌、整地、鎮圧
（ロータリーハロ、ディスクハロ等）



施肥・は種
（グラスシーダ、ブロードキャスト）



鎮 圧
（ケンブリッジローラー等）



(2) 作溝法

作溝法は、草地の表層部（数センチ程度）をナイフやディスクにより切断して溝を作り、この中に、は種を行うものです。

●利点

- ・簡易更新の中では時間当たり処理面積が最も大きい
- ・地表面を攪拌しないので、傾斜地でも表土流亡の不安は無い
- ・地表面を攪拌しないので、更新した年でも作業機械で草地に入ることができる

●注意点

- ・土壌を攪拌しないので、理化学性の改善効果はほとんど無い
- ・堆肥や石灰質資材を土壌と混和できない
- ・草地のルートマット形成が厚い場合は、溝を確保するため、は種深度が深い機種を選択する
- ・溝の中で種子がむき出しになっているため、干ばつの影響を受けやすい

☆チェックポイント

- ・は種後のケンブリッジローラー等による鎮圧は不要
- ・種子をしっかりと落とすために作業スピードは6 km/h程度で行う
- ・草地の起伏に対応できるようにトラクタのロアリンクを降ろしきる
- ・地下茎イネ科雑草が30%以上占める場合は、既存植生の全面枯殺が必要

作業工程



※地下茎イネ科雑草が30%以上を占める場合は前植生枯殺処理
石灰質資材(ライムケーキまたはブロードキャスト散布)
堆肥散布(マニユアプレッタ)



は 種
(ハーバーマット、オーバーシーダ等 P.6-表2 参照)
※施肥を同時に出来るタイプの機械もあります



施 肥